

< もくじ >	
1. 2023年度総会報告ならびに大会概要報告	1
2. 研究会からのお知らせ	3
3. 研究会からの概要報告	4
4. 事務局からのお知らせとお願い	6

1. 2023年度総会報告ならびに大会概要報告

(1) 2023年度定例総会

1) 日 時：2023年6月25日(日) 13:00~13:30

2) 会 場：日本労働者生活協同組合連合会 C会議室

3) 定足数：団体会員を含めて154の過半数77。総会出席者数(書面による議決権行使者を含む)は32名、委任状が66名、合計98名。司会から定足数は満たしているとの報告

議長として袖井孝子会長が選出され、議長より議事録作成は森やす子理事、議事録署名人には荒井浩道理事が指名されました。引き続き、第1号議案(2022年度活動報告)、第2号議案(2022年度収支決算報告)、第3号議案(2023年度活動計画案)、第4号議案(2023年度予算案)まで、各担当理事から説明が行われ、満場一致で承認されました。

(2) 2023年度第22回大会

1) 日 時：2023年6月25日(日) 14:00~17:00

2) 開催方法：会場開催(オンライン併用)

3) 開催場所：日本労働者協同組合連合会会議室 池袋IPSビル8階 C会議室

4) 大会テーマ：「ジェンダー平等の日本を創ろう！」

5) 概要報告

■ 参加者：会場参加者29名、オンライン参加者24名、計53名(会員44名非会員11名)。また申し込みされながら参加できなかった人も10名いましたが、録画視聴してもらえよう設定しました。アンケートへの回答は26名(会場参加15名、オンライン参加11名録画視聴者2名を含む)

■ はじめに袖井会長の挨拶で、この学会では「老若男女共同参画社会」の実現を目指すという目標を掲げながら、ジェンダー問題を正面から取り上げるのは今回が初めてであることを耳にし、意外に感じた人も多かったかもしれません。

■ 基調講演：萩原なつ子さんの基調講演「“もはや昭和ではない”時代の誰一人取り残さない社会」では、ご自身が立教大学の教職に就くまでとそのあと女性教育会館理事長になるまでの多彩な経歴のなかでの宮城県での行政分野での活動の紹介があり、世界と日本での法改正の動きなど、図表を用いて世界での標準と日本のジェンダー差別の現状を説明されました。そして「消滅可能都市」において「人口減少の流れをストップさせるには、男性が働き方を変え育児に参画し、女性が本来の能力を生かして働ける社会にすることが必要である」と主張します。さらに、「黄色いトラ」が「デフォルト」となっているがゆえにわれわれは「白いトラ」を「ホワイトタイガー」と呼ばなければならない事実を引き合いにされたお話は、意表を突くものでした。いまだに昭和の時代意識のままである日本社会、つまり「デフォルト」が男性になっている「男性優位社会」における「女性」の位置を象徴的に言い表して分りやすく、しかもそのことに男性が気づかない



という「アンコンシャスバイアス」が強く残ることが問題であること、新しいジェンダー平等の時代の「デフォルト」に変えていくことこそ必要であるという最後のまとめも説得力がありました。

■ パネルディカッション：休憩を挟んで袖井孝子会長の司会で、3名のパネリストのそれぞれの立場と経験からのお話がありました。

★小平陽一（当学会運営委員）さんは、「男性の視点でとらえた暮らしの中のジェンダー」というタイトルでお話になりました。高校の化学の教員から家庭科の教員へと転身されたユニークな経歴をお持ちです。それでも、共稼ぎで子育て生活での悪戦苦闘、生活技術の未熟さを思い知らされながら、妻から突き付けられる男意識変革に葛藤があったと言います。また、家事と介護の分担と共有、テレビドラマやCMの変化、女子制服の変化、性の多様性の受け入れなど、変化しつつある部分がある中で、パートナーの呼び名、男女で分けられる仕事と趣味の世界で依然として残るさまざま問題を男性の目から指摘され、とくに男性の自立を図りながら、新しい男女の関係の模索の一例としての家事の勧めは参加者の男性の共感を呼びました。



★松島悦子（当学会理事）さんは、「地域に残存する男尊女卑」と題して、2017年から4年間滋賀県北東部に位置する人口約11万5千人（令和5年3月1日現在）の地方都市長浜市に居住し市政に携わった経験から、この地域に残存する男尊女卑の実態を知るとともに、ジェンダー平等社会形成への課題について話されました。市民は、「歴史・伝統があるまち」であることを誇りに思う一方、生活の場では、家庭、職場、地域社会において男性が優遇され、男女不平等であると感じていました。そして「伝統」として守り継がれた儀礼・しきたりのなかに、女性排除、家父長制、男尊女卑などが内包されることが、変化を生み出しにくい理由であることが明らかになったとのことです。そこで、長浜女性会議『長浜の女性 今これから～男女が共に暮らしやすい地域社会を』を企画、日本女性会議を長浜で開催することを目標に、2018年7月、地域の女性たちと第1回長浜女性会議を実施されました。分科会で「暮らしの中の悩み」をテーマにプレンストークミーティングを行ったと言います。最後に、誇るべき「伝統」や「しきたり」の中で何が残されるべきか、何を変えていかなければならないかの議論を深めるべきという問題提起がありました。



★木村民子（元文京区議会議員）さんは、「議会の鉄壁を崩そう!」というタイトルでのお話です。木村さんには子供の絵本や少女小説をジェンダーの問題意識から読み解いて解説する著書があります。諸外国の小説家が当時の歴史的背景のなかで自立して作家となり女性差別の壁を破った経緯を綴っておられます。そのような著作活動とともに、自ら文京区の区議に立候補して当選を果たし、2002年、超党派の女性議員6名が話し合い、区民を巻き込んでの条例制定を目指そうと「(仮称)男女平等参画推進条例を作る会」を立ち上げ原案を提出するも、「時期尚早」ということで否決されましたが、約10年後にはその努力が実を結び、2013年に「男女平等参画推進条例」が文京区で制定されたとのことです。その後の国会でのいわゆる「候補者男女均等法」が成立するも、内容が不十分であるので今後も関心を払っていくというお話しでした。



■ 萩原なつ子さんから、各パネリストのお話しへのコメントがありました。ジェンダー意識についてはとくに若い人の間に昭和時代への揺り戻しがあることや、京都の祇園祭の調査や他の地域の伝統の分析でも、伝統を守るための差別の撤廃か、あるいは伝統を守るために祭り自体が消失するかの選択が地域でなされていることや、差別につながる不当な区別と差別にはつながらない区別との違いを見極めることの重要性が指摘されました。また、議員の数については災害を経験している地域では女性議員の割合が多いことに気付いたということで、災害復興に女性議員の声が反映されているというお話も関心を集めました。

◆ 基調講演、パネリストのそれぞれのお話も、重要な問題を提起しておりもう少し時間をかけてじっくりと議論したい内容でした。コロナ禍中での限られた時間内での会場とオンライン参加を

組み合わせた大会の限界をいかにして越えていくかが残された課題となりました。

最後にアンケート結果からいくつかのご意見をご紹介します。

- * ジェンダー平等実現の難しさを痛感しているの、興味深く拝聴させていただきました。(非会員 60 歳代 女性)
- * 現実生活でジェンダー不平等を感じていないので、違和感があった。必要な区別と不当な区別を混同しないことが大事。(会員 80 歳代 男性)
- * ジェンダーの課題に様々の立場から取り組まれてきた人の実体験を聞くことができ、単なる観念論に終わらなかった点が大変良かった。(非会員 70 歳代 男性)
- * 家庭科教育、地域社会、政治と、ジェンダー問題を複眼的にとらえ直すことができました。(非会員 60 歳代 女性)

2. 研究会からのお知らせ

(1) 第152回 「社会保障」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2023年7月26日(水) 18:00~20:00
 - 2) 報告者：稲山未来 (kery 栄養パーク代表、認定在宅訪問管理栄養士)
 - 3) テーマ：「管理栄養士による地域食支援」
 - 4) Zoom でいたしますので、参加を希望される方は、阿部と小島にご連絡ください。
阿部富士子 fujiko-s@jeans.ocn.ne.jp 小島みさお kojima.misao01@gmail.com
- ※ ご質問がありましたら、阿部(旧姓佐藤)まで
090-4436-6853

(2) 第89回「シニア社会のリテラシー」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2023年7月27日(木) 15:00~18:00
 - 2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第7共同研究室
 - 3) テーマ：報告書の寄稿者による要旨の発表と意見交換
 - 4) 参加費：300円
- ※ お問い合わせは、島村 (ken-sima1941@jcom.home.ne.jp) までお願い致します。

(3) 第45回「ライフプロデュース」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2023年7月28日(金) 17:30~19:30
 - 2) 場 所：Zoom 開催
 - 3) テーマ：3年間のコロナ禍を経験して、ライフスタイル(価値観、人生観、行動など)どう変化したか? ファシリテーター 若井泰樹さん
- ※ ご連絡ご質問は、中村昌子 (nakamurayoshiko6@gmail.com) までお願いします。皆さまのご参加、お待ちしております。

(4) 第66回「災害と地域社会」研究会から講演会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2023年8月7日(月) 19:00~20:30
- 2) 開催方法：オンライン開催
- 3) テーマ：「すべての人のいのちが尊重され、健康に暮らせる社会を目指して」
- 4) 申込方法：以下のフォームからお申し込み下さい。

<https://forms.gle/EPpMiBg55nwQ45ry7>

■ 講演会開催の趣旨と内容

「災害と地域社会」研究会では、これまでほぼ毎年「フクシマを忘れない」と題するシンポジウムを続けて参りましたが、今年はこれまでと趣を変えて、講演会の開催を企画いたしました。

世界各地で「プライマリヘルスケア (PHS)」という医療実践を続けてこられた本田 徹医師が、最近、福島県飯館村に拠点を置き、東京の山谷とを行き来しながら、地域で支える「プライマリヘルスケア」の実現を目指しておられます。その活動の根底にあるのは、つねに「すべての人のいのちが尊重され、健康に暮らせる社会とは？」と問いかける姿勢です。今回、プラチナギルドの会の中

町芙佐子さんからのご紹介で、本田医師に講演をお願いしお引き受けいただくことができました。福島原発事故被災地で働く本田医師に、具体的な医療活動を通じて被災地の現状に対する思いを語っていただくことで、われわれが何を学ぶべきか、何ができるかを考えてみたいと思います。

■ 講師：本田 徹（飯館村いたてクリニック、NPO 法人シェア＝国際保健協力市民の会理事）

※ 詳しくは、添付のチラシをご参照ください。

(5) 第36回「YNS やまぶき任意後見サポート会」開催のお知らせ

- 1) 日 時：2023年8月26日（土） 18：30～20：30
- 2) 場 所：品川区東大井 5-18-1 きゅりあん 第二グループ活動室
- 3) 発表者：鈴木 眞澄及びその他 YNS やまぶき任意後見サポート会
- 4) テーマ：認知症とともに生きる

びしょうざ

劇団 「B笑座」第23回。

認知症らしさを体験することで新たな発見が生まれます。人形劇、寸劇その他劇団員募集しています。Zoomの参加もできます

※ お問い合わせは、鈴木 眞澄（mme_masumi@yahoo.co.jp）迄お願い致します。

3. 研究会からの概要報告

(1) 第44回「ライフプロデュース」研究会の報告（追記）

- 1) 日 時：2023年6月6日（火） 17：30～19：30
- 2) 報告者：中村昌子
- 3) タイトル：読書会 私とは何か。個人から分人へ 平野啓一郎 講談社現代新書 2012年
- 4) Zoom 開催

※ 6月6日に開催した第44回の概要報告について、「今後の研究会開催日程」については報告しましたが、今回は「読書会」について追記いたします。

私とは何か。個人から分人へ 平野啓一郎 講談社現代新書 2012年

この作品は、著者が、2009年 第19回 Bunkamura ドゥマゴー賞を受賞した、近未来長編小説『ドーン』を刊行後、複数の知人や読者から、この作品中で語られている「分人主義」という思想についてのエッセンスを纏めてもらいたいという意見を受けて、わかりやすさを第一に考えて着手したものだそうだ。「個人主義」が、表層的な複数の自我は、深層的な主体に従属するものとして解釈されるのに対して、「分人主義」は、表層的にも独立した「複数の自我がそれぞれ自立したもの」と理解される点が大きく異なる。

如何なる状況下でも自分を貫きすぎると「KY（空気を読めない人）」と見られてしまうし、はたまた、「本当の自分は、自分だけが理解するコアな部分にあり、あとは人間関係ごとに仮面を被って役割を演じているだけだ。」では、何かと自分自身が窮屈だし…。分人主義は、「そもそも本来の自分というものは存在せず、分人の集合体が自分であり、比率は臨機応変に変わりうる」というしなやかな考え方である。

著者が提唱するこの「分人」という考え方一、相手の言動に翻弄されることもなく、必要以上に「個性」を意識する必要もなく、たおやかに、変幻自在に、自分の中の複数の「分人」たちが刺激し合い、時には融合し、自分の中の「共同体」を創造していき、他者との関係性でも一つの価値観に縛られず、安易に「絆」を連呼、強調する必要もない。「分人」の概念は、今の時代にマッチする考え方だと私自身は感じ、もともと「分人」を使い分けて生きてきたともいえる私は、ふっと楽になった一冊だった。

他メンバーの皆さまがフォーカスした読後感様々、その人らしい切り口で大変興味深かった。
(中村昌子 記)

(2) 第42回「社会情報」研究会の報告

- 1) 日 時：2023年6月14日（水） 15：00～16：50
- 2) 場 所：Zoom 開催
- 3) テーマ：俱進会調査研究 あざみ野（市川）報告会用報告書案検討と意見交換

- ① あざみ野（市川）用報告書に向けて
あざみ野（市川）用報告書原案を八巻さんから報告
- ② 協力者向け報告会
あざみ野：7月19日（水）10：00～12：00
市川：10月2日（月）10：00～11：30
- ③ あざみ野（市川）用報告書についての意見
 - ・支援としてスマホリモートアクセスサービスがある。費用は高い、低いといった話が報告会で出ると思う。インタビューが終わった後、これがきっかけとなって、認知症対策としてスマホを利用するということが結構、話題になっている。
シニアが使えないと困るのは老人ホーム（デイサービス）。職員が利用者に教えている使わせる側が焦ってきている。利用者が使えないと業務が動かない機能をもっと使うように啓発してほしい、ビビりながら使っている人が多い。こういう使い方ができるよという提案をしてほしい。（安田 和）
 - ・スマホリモートアクセスサービスについて、参加者に聞いてみたい。過去はデイサービスでは、利用者が使えなくても問題はないとの意識があったが、今は変わってきているのか。自身が使って便利な機能を語り合う会というものやってはどうか。（八巻）
 - ・スマホゲームで認知症予防という話もある。テレビの再視聴もQRコードで行なうことが増えた。QRコードですることが増え、レストランの注文も、コロナを経て、タブレットから自身のスマホに変わった。（森嶋）
 - ・PCはアプリが捨てるほどある、移動以外はすべてできる。スマホで何をやるか、期待するかということは考えられない。スマホではPCのOfficeのようなものはない。アプリケーションの作り方もPCとは違う、普及させるためのアプリの見直しが必要。Androidは機種数が多い、そうするとアプリ作成に手間暇がかかる、効率が悪い。（安田 育）
 - ・（報告会では）スマホを使うとき、何が課題かを整理して示す必要がある。
 - ①（初級）リテラシーがない、字が打てない（訓練しかない）
 - ②（中級）あるところまででよしとする。その先にいかない
 - ③お金絡み、セキュリティ問題
 最終的には、専門家に聞くネットワークが必要。その先はどうするかが課題。一番大事なのは、グループのコミュニケーション（相手）をいかに活かすか。
（スマホで）やりたいことはないという話だが、ChatGPTをどう使うかというように、生活が変われば、やりたいことが新たに出てくる→やりたくなるが出てくる。
（スマホが）できない人はとても危険な状態、助けなくてはならない（教える）。
“コミュ助”というのはどれだけみんな使っているかということ。年を取ると、こういうことが減っていくのが困る。（齋田）
 - ・スマホを使いきれない人というのは、やりたいことがないし、危ないし、使えないし、わからないし聞く人もいないしで、諦めてしまっている → 現状これでいいと思いつむ。
シニアでも初級・中級・上級でアプローチを変えていかなければならないのではないか。（富田）

（森 記）

（3）第88回「シニア社会のリテラシー」研究会開催の報告

- 1) 日 時：2023年6月26日（月） 15：00～18：00
- 2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第7共同研究室
- 3) テーマ<1>：濱口先生のレクチャー

「戦争をしない国というイメージ戦略一再び『戦争はイヤだ』と言わなかったと言われたいのために」

テーマ<2>：報告書作成と連続講座企画への参加について

この度濱口先生は、ご自身の戦争体験そして私たちが戦争を身近なものとして捉えることが必要であるとお考えから、表記のタイトルの文章を32ページにまとめられ、先生の思い、お気持ちを赤裸々に語ってくださいました。先生のレクチャーは、戦争に関し多方面に亘りましたが、先ず憲法について、ご自身は第13条が一番大事であるとお考えること。第13条は第9条、第11条、第27条を支えているとお考えること。今日社会は成熟社会に向かっているが、「成熟社会の展開図」に「戦争」という言葉を記入すると、第Ⅰステージは「石器」第Ⅱステージは「鉄器」そして第Ⅲステージは「原子力」になる。すなわち戦争の第Ⅲステージは、地球が滅びることである。イメージ戦略は、外交の問題であり、政府の対応が重要である。中国問題もしかりである。戦争は正義を建前に遂行されるので、「正義の戦争」という言い分は疑う必要がある。「戦争はイヤだ」という感情は大切である。私たちは、戦争を身近なものとして感情レベルでイヤだということは、必要である。このイヤだという感情を昇華させ、言語化して自分の言葉化することが必要である。先生ご自身は樺太で過ごされた5年間は空白であったとも言われた。尚、当レポートは「未完」であること。それはデュルケムの本を成熟社会との関係で述べたかったが、目の具合が悪いため、読み切れていなかったことによると述べられた。そして最後に先生は、戦争阻止の意思をもっと拡散したいとお気持ちから、先生のレポート【1】の「ぴよんと飛べなかつたうさぎ―戦後を『新しい戦前』にしないための遺言」とレポート【2】の「戦争をしない国日本というイメージ戦略―再びどうして『戦争はイヤだ』といわなかつたのと言われなかつたために―」をご希望の方は、以下のメールアドレスまでお知らせください。

h3hamagu3@tbm.t-com.ne.jp 或いは hamaguchi@oiso.college

お知らせいただければ、メールでお届けいたします。とのメッセージをいただいています。

テーマ<2>の「報告書の作成と連続講座企画への参加について」は、安田編集長から、これまでの経過報告と同時に、いい報告書の作成と折角の機会を与えられた12月9日（土）の第4回連続講座への参加もいい企画で対応出来る様に、今後議論して煮詰めて行きたいと報告がありました。

（島村健次郎 記）

4. 事務局からのお知らせとお願い

<会員情報変更時のご連絡のお願い>

事務所移転後は、各種ご連絡をeメールや郵送で行うことが多くなっております。会員情報（氏名・住所・メールアドレス等）に変更が生じた場合は、速やかにご連絡くださいますようお願いいたします。なお、電話による連絡はご遠慮いただいております。シニア社会学会事務局あて連絡は、eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp 又は郵送いずれかの方法にてお知らせください。

<2023年8月JAAS Newsの発行日>

次回JAAS News第288号の発行日は、2023年8月23日（水）です。原稿をお寄せ下さる方は、8月18日（金）までに、学会宛のeメール添付にてお願いいたします。

シニア社会学会 事務局一同

一般社団法人 シニア社会学会・事務局
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-21
ちよだプラットフォームスクウェア1037
eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp URL：<http://www.jaas.jp/>